

特集内のイラストは、「障害者のしごとを考える母の会」から提供していただきました。

気遣いが、 自然とできる社会へ



沼津市障害者自立支援協議会
会長 石井昌明さん

石井さんの考える障害とは
私たちの施設にいる人もそうですが、障害はひとくくりにできるものではありません。障害とは、社会生活を送る上で生きづらさを感じたり、困難が生じたりすること全てにイえるんです。例えば、視力が悪くて遠くのものが見えないことも、障害の一つです。走るのが苦手とか、特定の作業に集中できないことを障害と捉えることもできます。基準をどこに置くかによって、障害という考え方はその都度変わるといってもいいでしょう。言うなれば、誰にでも障害はあるのではないのでしょうか。

障害のある人もない人も、みんなが暮らしやすい社会の実現に向けて、誰もが取り組めることや心がけることについて、障害者の自立支援を推進する、沼津市障害者自立支援協議会の会長であり、社会福祉法人「あしたか太陽の丘」の石井昌明さんにお話を伺いました。



社会福祉法人「あしたか太陽の丘」の利用者と職員の方

障害のあるなしとは関係なく、コミュニケーションがとれないと、仲良くするのは難しいですね。あまり意識しないで、友人と同じように、親しみを込めて接してみてください。私は施設の人みんなに囲まれながら、楽しい毎日を送っているの、全く壁を感じていませんよ。

障害のある人とのように接したいですか
特別に何かを意識する必要はないんです。人と接する時は、誰しも何らかの気遣いがあるはず。しかし、心や身体に障害があると分かった途端に、どのような気遣いをしていいのかわからなくなってしまうことがあります。それは、日常生活の中で、障害のある人と触れ合う機会が圧倒的に少ないからなんです。
障害のある人は、年齢を重ねるにつれ、健常の人たちと分けられた環境におかれてしまうことがあります。すると、お互いに関わり合う経験が不足し、コミュニケーションをとることが不安になってしまいます。

支援する立場から考える「ノーマライゼーション」とは
障害のある人たちが過ごしていると、彼らが必要としているのかわかるようになってきます。車いすの人がバスに乗る時に手を貸すというように、これもそうですが、元気に挨拶をする、楽しく会話をすることだけでも、彼らの心に寄り添うことになるのです。障害のある人が気軽に地域の行事に顔を出したり、気持ち良くイベントに参加できるのもノーマライゼーションですよ。

皆さんは、学校や職場、街中などで障害のある人を見かけることはありませんか。障害のある人とどう接したらいいのか分からない、自分とは関係ないなどの理由から、関わることをためらうこともあるのではないのでしょうか。本市では、およそ1万人の人が障害者手帳を所持しています。これは約20人に1人の割合であり、その数は年々増加しています。手帳を所持していても、日常生活を送るのに困難を抱えている人も多くいることから、誰もが暮らしやすいまちづくりを進めることが急務となっています。
このような状況の中、近年「ノーマライゼーション」という言葉が使われるようになってきました。ノーマライゼーションとは、障害のある人や高齢者など、様々な人の人間性を十分に尊重し、そのあるがままの姿で、誰もが同じように権利を享受できるようにするという福祉理念です。
一人でも多くの方がノーマライゼーションを知り、理解し、行動することは、第4次沼津市障害者計画の基本理念である「だれもが自分らしく、お互いを思いやり、ともに生きるまち、ぬまづ」の実現にも繋がります。
今回の特集では、ノーマライゼーションをテーマに、障害のある人と、身近にいる人たちにお話を伺いました。一つひとつの言葉がヒントとなり、私たちにもできる環境づくりについて考えることができそうです。

☎055-934-4829

◎障害福祉課

ヘルプマーク・ヘルプカード

「配慮が必要な人」と「手助けできる人」を結ぶための目印です。携帯している人を見かけたら、思いやりのある行動をお願いします。

市役所別館障害福祉課にて配布しています。



Proud NUMAZU